

☆四旬節第3主日(3月15日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (出エジプト記 17章 3～7節)

その日、民は喉が渇いてしかたないので、モーセに向かって不平を述べた。「なぜ、我々をエジプトから導き上ったのか。わたしも子供たちも、家畜までも渇きで殺すためなのか。」モーセは主に、「わたしはこの民をどうすればよいのですか。彼らは今にも、わたしを石で打ち殺そうとしています」と叫ぶと、主はモーセに言われた。「イスラエルの長老数名を伴い、民の前を進め。また、ナイル川を打った杖を持って行くがよい。見よ、わたしはホレブの岩の上であなたの前に立つ。あなたはその岩を打て。そこから水が出て、民は飲むことができる。」モーセは、イスラエルの長老たちの目の前でそのとおりにした。彼は、その場所をマサ(試し)とメリバ(争い)と名付けた。イスラエルの人々が、「果たして、主は我々の間におられるのかどうか」と言って、モーセと争い、主を試したからである。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 5章 1～2、5～8節)

愛する皆さん、このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。

希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの

心に注がれているからです。実にキリストは、わたしたちがまだ弱かったころ、定められた時に、

不信心な者のために死んでくださった。正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。

善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれませんが。しかし、わたしたちがまだ罪人であったとき、

キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

福音朗読 (ヨハネ 4章 5~42節)

イエスはヤコブがその子ヨセフに与えた土地の近くにある、シカルというサマリアの町に来られた。そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅に疲れて、そのまま井戸のそばに座っておられた。正午ごろのことである。サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、「水を飲ませてください」と言われた。弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。すると、サマリアの女は、「ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか」と言った。ダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。イエスは答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物を知っており、また、『水を飲ませてください』と言ったのがだれであるか知っていたならば、あなたの方からその人に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」女は言った。「主よ、あなたはくむ物をお持ちでないし、井戸は深いのです。どこからその生きた水を手にお入れになるのですか。あなたは、わたしたちの父ヤコブよりも偉いのですか。ヤコブがこの井戸をわたしたちに与え、彼自身も、その子供や家畜も、この井戸から水を飲んだのです。」イエスは答えて言われた。「この水を飲む者はだれでもまた渴く。しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渴かない。わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。」女は言った。「主よ、渴くことがないように、また、ここにくみに来なくてもいいように、その水をください。」イエスが、「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい」と言われると、女は答えて、「わたしには夫はいません」と言った。イエスは言われた。「『夫はいません』とは、まさにそのとおりだ。あなたには五人の夫がいたが、今連れ添っているのは夫ではない。あなたは、ありのままを言ったわけだ。」女は言った。「主よ、あなたは預言者だとお見受けします。わたしどもの先祖はこの山で礼拝しましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」イエスは言われた。「婦人よ、わたしを信じなさい。あなたがたが、この山でもエルサレムでもない所で、父を礼拝する時が来る。あなたがたは知らないものを礼拝しているが、わたしたちは知っているものを礼拝している。救いはユダヤ人から来るからだ。しかし、まことの礼拝をする者たちが、霊と真理をもって父を礼拝する時が来る。今がその時である。なぜなら、父はこのように礼拝する

者を求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」女が言った。「わたしは、キリストと呼ばれるメシアが来られることは知っています。その方が来られるとき、わたしたちに一切のことを知らせてくださいます。」イエスは言われた。「それは、あなたと話をしているこのわたしである。」ちょうどそのとき、弟子たちが帰って来て、イエスが女の人と話をしておられるのに驚いた。しかし、「何か御用ですか」とか、「何をこの人と話しておられるのですか」と言う者はいなかった。女は、水がめをそこに置いたまま町に行き、人々に言った。「さあ、見に来てください。わたしが行ったことをすべて、言い当てた人がいます。もしかしたら、この方がメシアかもしれません。」人々は町を出て、イエスのもとへやって来た。その間に、弟子たちが「ラビ、食事をどうぞ」と勧めると、イエスは、「わたしにはあなたがたの知らない食べ物がある」と言われた。弟子たちは、「だれかが食べ物を持って来たのだろうか」と互いに言った。イエスは言われた。「わたしの食べ物とは、わたしをお遣わしになった方の御心を行い、その業を成し遂げることである。あなたがたは、『刈り入れまでまだ四か月もある』と言っているではないか。わたしは言うておく。目を上げて畑を見るがよい。色づいて刈り入れを待っている。既に、刈り入れる人は報酬を受け、永遠の命に至る実を集めている。こうして、種を蒔く人も刈る人も、共に喜ぶのである。そこで、『一人が種を蒔き、別の人刈り入れる』ということわざのとおりになる。あなたがたが自分では労苦しなかったものを刈り入れるために、わたしはあなたがたを遣わした。他の人々が労苦し、あなたがたはその労苦の実りにあずかっている。」

さて、その町の多くのサマリア人は、「この方が、わたしの行ったことをすべて言い当てました」と証言した女の言葉によって、イエスを信じた。そこで、このサマリア人たちはイエスのもとにやって来て、自分たちのところにとどまるように頼んだ。イエスは、二日間そこに滞在された。そして、更に多くの人々が、イエスの言葉を聞いて信じた。彼らは女に言った。「わたしたちが信じるのは、もうあなたが話してくれたからではない。わたしたちは自分で聞いて、この方が本当に世の救い主であると分かったからです。」

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

めっきり春めいてきました。身の回りのあちこちに春の温かさと春の色が溢れています。13日より新型コロナ対策用のマスクも外していいことになりました。うれしいですね。それとともに教会の暦も四旬節の半ばに差し掛かりました。今日は阿部神父様が来てくださり、ゆるしの秘跡が受けられますので、ご利用ください。また四旬節愛の献金もお忘れなく。今日のミサで語られる神のことばは「水」にちなむお話です生きていく上で大切な水。耳を傾けましょう。

第一朗読 (出エジプト記 17章 3～7節)

エジプトを脱出したイスラエルの民は砂漠での飲み水に困ってしまったようです。そこで民はモーセに不平を言います。「水がたくさんあったエジプトからなぜ砂漠に連れてきて渴き殺すのか」と。それに対し神はホレブの山の岩から水を湧き出させ、民に飲ませます。この神を試みる行為はのちに神の怒りを買ってしまいます。過去の災いを忘れて目の前の苦しみによって神に不平を言ってしまったからです。砂漠の人々にとって大事な水ですが、岩から水を湧き出させられた神を離れては生きていくことができないことを思い知らされます。

第二朗読 (使徒パウロのローマの教会への手紙 5章 1～2、5～8節)

パウロはキリスト信者の希望について語ります。イエスの福音を信じる私たちは、キリストにおいて神の栄光に与る希望を誇りとしているのです。この希望は私たちが欺くことがないとパウロは断言します。それは神の愛が私たちの心に注がれているからです。この「注ぐ」という言葉は「水を注ぐ」ことを思い起こさせます。水が人間にとって必要不可欠であるように、神を信じる人にとって「神の愛」は必要不可欠なのです。この「神の愛」をイエスは私たちに注ぎ続けられているのです。

福音朗読 (ヨハネ 4章 5～42節)

イエスとある女性の水をめぐる出会いのお話です。律法学者やファリサイ派の人たちとの議論の多い福音の中で、ある意味とても人情溢れる雰囲気を持った個所です。イエスが女性と長く話されている箇所はそれほど多くないのですが、今日読まれたヨハネの福音は豊かな情景を私たちに与えてくれます。水を汲みに来た女性。古代の人々にとって井戸から水を汲んで家に持ち帰ることは当時の女性たちにとって大変大事な仕事でした。水を汲んだ壺を頭にのせて家まで運ぶのです。イエスは歩き疲れてのどが渴いていたのでしょう。普段は声すらかけない敵対的な関係にあったサマリアの女性に水を飲ませてほしいと声を掛けます。こうすることによってイエスは異邦の人々にも福音を語り掛けます。当時のタブーであったサマリアの女性に語り掛けることによって当時の既成概念を打ち破っていかれるのです。安息日に病人を癒されるイエス罪人と食事をされるイエス、そしてサマリアの女性と親しく話されるイエス、エルサレム神殿に限られずどこでも「霊と真理をもって父を礼拝する者を求めておられる」とイエスはこの女性を通して今の私たちに語り掛けておられるのです。イエスが井戸のふちに腰掛けられて水を汲みに来た女性に、親しく声を掛けておられる情景には惹かれるものがあります。



サレジアン・シスターズ山中修道院広場で遊ぶ子供たち (2022年)

P.S.

春です。コロナも収まり始めました。春の陽気の中でより多くの人々に神様との生き方を伝えましょう。まず動くことが大切です。動くと変化が生まれ風が起こり、聖霊が働き始めます。

カトリック足立教会主任司祭
野口重光